



Photo collection
ナント・新潟
By Tsutomu Honma

◀ナント市・ロワール川

新潟市・信濃川▶



BONJOUR

ボンジュール
pour l'avenir ~未来へ~



vol.40 2024.12.17 発行

ASSOCIATION NIIGATA-FRANCE

- 発行 新潟・フランス協会
- 新潟市中央区東堀通6-1038(丸屋本店内)
- TEL・FAX 025(225)2424
- http://anfrance.com/

2024年、新潟・ナントの両市が姉妹都市提携を締結してから、15年の節目を迎えました。

イベントカレンダー

2024年

4月15日(日) 定時総会・コンサートとフランス料理の夕べ
シャンソン歌手:いまい あい・ピアノ:斉藤晴海

7月22日(日) 夏の例会
成嶋志保ピアノコンサート

高木セミナー 全3回

【第一回】2024年11月6日(水)
ルーヴル美術館とオルセー美術館

【第二回】2024年12月4日(水)
モンマルトルとモンパルナスをめぐる旅

【第三回】2025年1月8日(水)
アンリ・ルソーの生涯と作品
※第二回、第三回は修了となりました。

11月22日(金) ナント市代表团歓迎レセプションのご案内
オペラ歌手:いまい あい・ピアノ:斉藤晴海

ホテル法人会員様 特典・サービス

会員様には、ホテル法人会員様の多大なご協力により特典・サービスを改めてご提供頂ける事となりました。お気軽にご利用頂ければ幸いです。今後、他の法人会員様にも特典・サービスのご協力を頂けるようお願いしたいと考えております。暫時、改めてご案内申し上げます。

新潟・フランス協会設立30周年記念 ホテル法人会員様特典・サービス

| ホテル名(アイウエオ順) | 新潟・フランス協会会員限定 特典内容 |
|---|--|
| 新潟グランドホテル 〒950-8530 新潟市中央区下大川筋3-2230 ☎025-228-6111 | ランチ、ディナー利用時 グラスワイン、ソフトドリンク1杯サービス フランス料理 ヘルビュー、中国料理 慶楽、日本料理清香庵 会員のみ利用可 (会員証をご提示) |
| 万代シルバーホテル 〒950-243-3711 新潟市中央区万代1-3-30 ☎025-243-3711 | 夕食ご利用時、グラスワイン(赤・白)またはソフトドリンク1杯サービス ダンスイングリッド、銀鈴、柳江苑 会員のみ利用可 (会員証をご提示) |
| ホテルイタリア軒 〒950-224-5111 新潟市中央区西堀通7-1574 ☎025-224-5111 | 会員主催による宴会(冠婚葬祭)時、お料理・飲み物料金の10%割引、 宴会場税込み表示価格の10%割引 直営レストランでお食事時にグラスワイン・生ビール、コーヒー・紅茶・ ソフトドリンク1杯サービス、コーヒー・紅茶セットのお食事の場合は グラスワイン・生ビール、ソフトドリンク1杯サービス ※他の割引クーポンの併用利用できません ※お料理・飲み物以外の商品(お花やお土産)は適応いたしません ご同伴者の利用可(1,100円以上のお食事) (会員証をご提示) |
| ホテルオークラ新潟 〒950-224-6111 新潟市中央区川崎町6-53 ☎025-224-6111 | One Harmony ご入会者様に One Harmony カタログ記載のサービスを致します (One Harmonyの会員証をご提示) |
| ホテル日航新潟 〒950-240-1888 新潟市中央区万代島5-1 ☎025-240-1888 | ホテル内直営レストラン、中国料理・桃李、オールデイダイニング・ セリーナでお食事利用時、グラスワイン(赤・白)、グラス生ビール、 焼酎、コーヒー、紅茶、ソフトドリンク1杯サービス (ご同伴者の利用可会員証をご提示) |

※上記特典・サービスは、各ホテル様の都合により内容を変更する場合があります。ご了承ください。



姉妹都市提携15周年

新潟・ナント交流に至る経緯

新潟・フランス協会は1991年に設立されました。設立の主旨、目標として、新潟市とフランスの都市との交流の夢を掲げました。新潟市と姉妹都市の締結が可能な都市を探し求めフランス大使館にも意見をお聞きました。新潟市と共通性があり、今後の発展が期待される都市を相談、ほどなくフランスの3都市を候補に上げて頂きました。大使館がナント市に繋いでくれたのではなく、私たち新潟・フランス協会は候補に上がった諸都市へアプローチするため暗中模索ながら様々な調査検討を行いました。幸運にもナント市に設立されたばかりのアトランティック・ジャポン協会という日本人会長が運営する団体が存在することを知りました。当時の優子・Le・Dimna会長に手紙を送ったところ「一度ナントに

ぜひ訪ねてきてください」とお誘いを頂いたことが交流の始まりでした。新潟・フランス協会設立後の翌年2月にナント市へ故松崎文則初代会長を団長に18名の会員が訪問しアトランティック・ジャポン協会会員やナント市(当時のパトリック・マルシャル第一助役、国際課など)から温かく心に残る歓迎を受けました。さらに皆さんがナントの人と町に魅了され、初めての「お見合い」は大成功でした。翌年1993年9月にDimna会長を始めとする協会代表団が新潟市を訪問され交流の意義を確かめ合いました。その土台の上に人と人との繋がりが生まれそして今日に至ります。2009年、新潟市とナント市は市民交流の実績を踏まえ姉妹都市提携に調印することになりました。(文責 当時の新潟・フランス協会事務局長 本間 彊)

| | | | | |
|--|--|--|--|---|
| 池伝株式会社 〒950-0863 新潟市中央区卸新町2-948-15 TEL 025-275-5136 FAX 025-275-5139 | ホテルイタリア軒 〒951-8061 新潟市中央区西堀通7-1574 TEL 025-224-5111 FAX 025-224-7679 | 株式会社ウオショク 〒950-0951 新潟市中央区角屋敷450-1 TEL 025-283-7288 FAX 025-283-7218 | NSGグループ 〒951-8063 新潟市中央区古町通2-495 TEL 025-224-2650 FAX 025-222-2100 | 酒類 小川 〒951-8041 新潟市中央区本町2-2597 TEL 025-228-1631 FAX 025-222-1051 |
| 片山商事株式会社 〒950-0868 新潟市東区葉竹新町1927-24 TEL 025-274-1160 FAX 025-274-1285 | キリンビールマーケティング新潟支社 〒950-8530 新潟市中央区東大通1-2-23 北陸ビル4F TEL 025-245-2321 FAX 025-241-6381 | 株式会社グラムスリー 〒1103-0013 東京都港区高松町2-1-13 芝エクレールビル3F TEL 03-6402-0303 FAX 03-6402-0302 | 株式会社 サイタマ 〒950-0145 新潟市江南区亀田早通東郷2503-1 TEL 025-382-3232(代表) FAX 025-382-6432 | J risk management 株式会社Jリスクマネジメント 〒950-0088 新潟市中央区万代1-3-10 万代ビルディング TEL 025-278-3018 FAX 025-278-3028 |
| 学校法人 エイシンカレッジ シェフバティエ専門学校 〒950-0911 新潟市中央区 谷口 2-9-1 TEL 025-242-0025 FAX 025-242-0026 | 早福酒食品店 〒951-8162 新潟市中央区関屋本村町2-305 TEL 025-266-8101 FAX 025-266-8105 | 塚田牛乳 〒950-0213 新潟市江南区木津工業団地2-1 TEL 025-385-3911 FAX 025-385-4126 | 株式会社 トップライズ 〒950-0861 新潟市秋葉区北區上2-22-29 TEL 025-24-4648 FAX 025-24-4674 | 新潟グランドホテル 〒951-8052 新潟市中央区下大川筋3-2230 TEL 025-228-6111 FAX 025-228-0735 |
| 学校法人 新潟総合学園 〒950-0916 新潟市中央区米山3-1-46 TEL 025-255-5522 FAX 025-255-5523 | ALSOX 新潟総合警備保障科 〒950-0026 新潟市東区小島1-17-20 TEL 025-274-1965 FAX 025-271-3445 | NCTS 新潟看護専門学校 〒950-0906 新潟市中央区東幸町 8-8 TEL 025-244-2161 FAX 025-247-7928 | 新新潟自動車株 〒950-0881 新潟市東区 榎町 7 5 TEL 025-273-3171 FAX 025-275-9225 | 新潟日報社 〒950-0088 新潟市中央区万代3-1-1 TEL 025-385-7444 FAX 025-385-7446 |
| 新潟薬科大学 〒956-8603 新潟市秋葉区 東島 265-1 TEL 0250-25-5000 FAX 0250-25-5021 | 日南ホーム株式会社 〒950-0982 新潟市中央区堀之内南1-15-6 TEL 025-241-2471 FAX 025-241-2488 | 日本アニメ・マンガ専門学校 〒951-8063 新潟市中央区古町通5番町602-1 TEL 0120-964-308 | 日本旅行 〒950-0087 新潟市中央区東大通1-3-8 TEL 025 248 1000 FAX 025-248-6165 | ワライテールシルバーホテル 〒950-8533 新潟市中央区万代1-3-30 TEL 025-243-3711 FAX 025-243-3720 |
| VIP GROUP 株式会社VIP 〒950-0994 新潟市中央区上所2-11-33 TEL 025-285-1110 FAX 025-285-1113 | 藤田金属株式会社 〒950-8588 新潟市中央区八千代1-7-20 TEL 025-245-6666 | 株式会社 芳樹園 〒950-8741 新潟市中央区堂宮3丁目1番地1 TEL 025-284-7876 FAX 025-283-6874 | ホテルオークラ新潟 〒951-8053 新潟市中央区川崎町6-53 TEL 025-224-6111 FAX 025-224-7060 | ホテル日航新潟 〒950-0078 新潟市中央区万代島5-1 TEL 025-240-1888 FAX 025-241-0877 |
| 丸屋本店 〒951-8065 新潟市中央区東堀通6-1038 TEL 025-271-6111 FAX 025-225-5133 | meiji 株式会社 梅明治 関東支社 新潟南オフィス 〒950-0141 新潟市江南区亀田工業団地2-1-37 TEL 025-382-1056 FAX 025-382-1029 | 株式会社 よね蔵 〒959-1232 新潟市井土島5-174 〒950-0141 新潟市江南区亀田工業団地2-1-37 TEL 025-64-7432 FAX 025-64-7955 | 編集後記 会報委員 脇本 美奈栄 | |

入会のお誘い

URL : <http://anfrance.com/>

年会費/個人会員 5,000円 学生会員3,000円 法人会員30,000円
申込先/事務局(丸屋本店内 TEL025-225-2424)または各会員へ
メールアドレス: niigatafrance@anfrance.com

編集後記

会報委員 脇本 美奈栄

今号発行にあたり、ご寄稿いただいた皆さまに感謝申し上げます。写真も多数提供いただき、姉妹都市提携15周年の記念イベントの楽しい交流の様子が伝わる紙面となりました。これからも皆さまと共にナント市との交流の輪を広げていけたらと思います。



— 変わらぬ魅力と友情 “ナントの秋” —

新潟青陵学園・理事長(元新潟市長) 篠田 昭

9月6日から3日間、新潟市とナント市との姉妹都市提携15周年を記念する新潟・フランス協会のナントツアーに参加させていただきました。今回、8年ぶりに訪れたナント市では、歴史と文化に裏打ちされた変わらぬ街のたたずまいに触れることができました。また、ナント市民は以前と同じように日本文化に深い関心を持ち、新潟との絆を大切にしてくれる温かい気持ちを随所で示してくれました。ナントとの変わらぬ魅力と、互いの友情を確かめ合うツアーとなりました。

ナント市と新潟市のつながりは、ナントから新潟の高校に留学した若者に端を発し、新潟・フランス協会の本間代表理事ら市民の皆さんがその縁を大きくしてくれたものと思っています。

その土台の上に、ナント市のジャン・マルク・エロー市長(当時・後のフランス首相)が「日本の本物の魅力を持つ都市である新潟市と、私たちは交流を深めたい」との明確なメッセージを発出してくれました。これを受けて、当時、新潟市長だった私もナント市を訪問。「日仏都市・文化対話」などに参加し、「世界のクリエイティブ都市」のトップランナーの一つであるナント市のまちづくりに魅了されてい

きました。

何回かの相互訪問の実績を積み上げ、互いの気持ちと魅力を確認した上で2009年、姉妹都市の調印をすることができました。日本で姉妹都市の協定を結んだ都市は数多いと思いますが、新潟・ナントのように市民交流の確かな土台の上に市同士が結ばれた例はそう多くはないと思います。このことが両市の絆を深く、強くしているのだと思います。

今回のツアーでも、ナント市民の友情と交流への熱い想いを随所で感じる事ができました。「食文化交流の日」はすぐに参加者が予定人数を超えたそうですし、江戸千家のお茶を提供した「日本文化紹介の日」も長い市民の列ができました。新潟を何度も訪れてくれたダニエル助役(当時)も顔を出してくれ、変わらぬ友情を実感することもできました。

これからも市民・民間交流の土台を活かし、ナントとの交流は発展していく—そんな想いを確認するツアーに参加できたことに感謝しています。ありがとうございました！

国際交流のあたたかさ

新潟市国際課主事 神田 絢子

ナントでの滞在中、私は日本料理 蘭(あららぎ)の佐藤大介シェフ率いる、「新潟の食堂」実施チームに同行させていただきました。このイベントは、新潟とナントのミシュランシェフが、両市の食材を用いたコラボメニューを考案し、お手頃な15€で市民に提供するというものです。昼・夜合わせて480食を用意したものの、チケットはわずか2分で売り切れという盛況ぶりです。中には、「今まで食べたお米の中で一番おいしかった。この感動と感謝をぜひシェフに直接伝えたい。」と食事後にお話に来られるお客さんもいらっしゃったほどです。しょうがごはんを頼る小さな子どものうれしそうな顔、両シェフやスタッフ同士の笑顔

も印象的でした。

鈴木裕美師範を中心とする協会の皆さまには、お茶を通して日本の「和の心」を届ける、



美しい茶会を開いていただき、新潟市代表団も参加させていただきました。

私自身も、子どもの頃に海外の子どもたちと触れ合うイベントに参加したことがきっかけで国際交流に興味を持ち、それが現在の仕事にも繋がりました。このたび、2つの15周年記念イベントを通して、多くの人々が異文化に触れたり、国や言語の壁を超えて感動や喜びを共有したりする瞬間に立ち会えたことは大変嬉しく、こうした機会の意義を再認識いたしました。そして、新潟・フランス協会、アトランティック・ジャポン協会を中心とする草の根の力から生まれた、新潟とナントの交流の歴史は、このようなあたたかいワンシーンの一つひとつが紡いできたものであるのだと実感しました。

最後に、この場をお借りし、提携15周年記念イベントにご尽力、ご協力いただきましたすべての皆様に、心よりの感謝を申し上げます。ありがとうございました。



ナントどたばた顛末記

新潟・フランス協会パリ支部 副支部長 水上 敬子

超ハードな日程をこなし、新潟市チームの方々がパリから飛び立ってすでに2か月が経ってしまいました。あの台風のような日々は何だったのでしょうか...なんて今も懐かしく姉妹都市15周年記念のお手伝いに行った事を思い出します。記念行事の一環としてナントの星付きレストランのペルーシェフ



と新潟の星付きレストランの佐藤シェフのコラボという企画を伺い、食いしん坊の私は一も二もなくお手伝いを志願し下心満載でナントに向かったのです。



が、ふたを開けてみたらとんでもない超過密スケジュール!! 新潟の食チームは深夜にナントに到着、その後の三日間で昼250食、夜250食をペルー氏のチームと共に準備し提供という日程、イベント日は到着後2日おいた3日目の日で、準備期間は1日半もありません。おまけに今まで入ったこともない厨房で準備、下拵えをし、使ったこともない調理器具で調理をするなんて...!?

この準備期間の間も佐藤シェフを取り囲むプログラムが満載。ペルーシェフから湖での漁への招待も目玉の一つ、朝5時半のモーニングコールで暗いうちにホテルを出発、寒さに震えながら漁師船に乗ればそこには素晴らしい景色と朝焼けがまっていました。普段出来ない素晴らしい体験に皆さんご満悦です。その後の朝食と熱いシャワーで昼食まで一休み。

昼食後はいよいよレストランの厨房の片隅を借りて下拵えに突入です。新潟食チームの担当は生姜ご飯。チームのメンバーは新生姜をひたすら洗って切って、500食分のお米や調味料を計算し準備していきます。時間に追われながらも、佐藤シェフの「まあ何とかかなるでしょう。楽観的にいきましょう。」という言葉に励まされ、皆さん結構楽しそうにお仕事をしていました。

さてイベント当日、食チームは朝から会場の厨房でお米を仕込みます。昼食分12釜、夕食分12釜...。炊けたお釜に意外と大量のおこげが出来て、捨てるにはもったいない。そこで佐藤シェフが思いついたのがおこげの天ぷら! シェフさすがです。開始30分前の余裕の発想! プロの凄みを感じました。

しかし、その後は私が天ぷらの担当でずーっと揚げ続けるハメに...。当日夜、最後のプレートを出し終わると「ワーッ」という歓声と共に両チーム全員ビールで乾杯! 会場からも盛大な拍手が。皆なの達成感は格別でした!!

翌日の午前中は特産品市場の視察、お土産を買う暇もなく午後2時発のTGVでド・ゴール空港に直行し日本に向けて飛び立っていきました。皆様本当にご苦労様でした!!



姉妹都市提携15周年記念訪問団 ナント市訪問の報告 (2024年9月5日~12日)

新潟・フランス協会 代表理事 (訪問団団長) 本間 彊

初めに姉妹都市提携15周年記念のナント訪問に参加されたすべての方々に感謝とお礼を申し上げます。

新潟市とナント市は2009年、当時の篠田昭市長とジャン・マルク・エロー市長(1989年~2012年:ナント市長 2012年~2014年:フランス共和国首相)のもとで姉妹都市提携を交わしました。1991年2月協会設立1年後の1992年2月に新潟・フランス協会は18名の会員により最初のナント市を訪問。その後今日までナント市との市民交流を続けて32年が経過しました。2009年1月、両市が姉妹都市として結ばれ、協会にとっても目標が実現し大きな成果を得たと同時に社会的な責任を共有することになりました。



行政の後押しは交流の層が厚くなって複合的な交流が可能となり、そして官民による姉妹都市提携15周年記念式典を迎えるに至りました。畢竟、交流の基礎を作ったのはこれまでナント市を訪問された会員の皆さんのご協力の賜物に他なりません。本年、9月5日に羽田空港を飛び立ち9月12日までの訪問の旅の内容は参加された方々より寄稿して頂きました。それぞれの思いや感想がリアルに記されております。お読み頂ければまことに幸いです。新潟・フランス協会として取り組んだ主な事業は「ナント・新潟茶会」と「食文化イベント」です。茶会は9月8日にナント市内に流れるエルドル川の中州にあるヴェルサイユ島の日本庭園に面した和風施設で開催されました。鈴木宗裕江戸千家越後支部長並びに門下7名の皆さんによる茶会はナント市マレ副市長をはじめ多くのナント市民に好評を博しました。茶道を実体験してもらいフランス語にて解説(エクサンプロヴァンス在住・新潟市出身)、歴史ある日本文化の敷衍に務められたと思えます。食文化チームは新潟市の日本料理店あらぎ(ミシュラン一ツ星)の

店主佐藤大介氏と予約がとれない人気店マノワール・ド・ラ・レガット(ミシュラン一ツ星)ペローシェフ氏による日本料理とフランス料理のコラボレーションです。レストランはナント市の郊外、エルドル川上流にある自然との調和の中に佇む建物は上質で華麗。落ち着いた店内で伝統と革新を彷彿させるフランス料理を参加者全員で頂きました。9月7日、ラ・カンテーヌ(ナント市民広場)で昼夜2回に亘る食文化イベントが盛大に行われました。市民など延べ500人分の料理を用意するのは気が遠くなるほどの仕事だったと思います。その一皿をカウンターで購入しナント市民と共に大テーブルで頂くイベントです。日仏の料理人がこの日のために準備し提供する試みは大成功でした。メインディッシュは珍しい魚料理ではあったのですが(・ナマズ)。

食文化チームに自ら手を上げ参加、ご飯炊きを担当してくれた新潟の郷土料理研究家。仏語と日本語に熟達し料理に精通したパリから駆けつけてくれた方(旧西蒲原郡出身)の活躍もあり、様々な人々の熱い相互協力のもとで成し遂げるに至りました。また新潟市国際課の皆さんの献身的なご助力は大きく忘れることはできません。9月6日夕刻、中世の時代に思いを馳せるナント市庁舎で提携15周年公式祝賀レセプションが厳かにも楽しく行われました。ロラン市長の挨拶に始まり高木会長の流暢なフランス語の挨拶を誇りに思い、和やかに記念式典・パーティーが閉じました。32年前、同じ市庁舎のこの部屋で思いがけず心のこもった歓迎レセプションを開いて頂き、ギャルソンがサービスする式典の様式に従ったフランス料理に驚き、感動を覚えたことが昨日のことのようでした。参加された皆さんがお互いを支え助け合いこの旅行は楽しかったと思って頂けるなら望外の喜びです。相互交流は継続してこそ価値があります。今後も会員の皆さんと共に交流を積み重ね、歩みを続けてゆければと願っています。有難うございました。



新潟市—ナント市 姉妹都市提携15周年記念 祝賀 ナント新潟茶会にて

新潟・フランス協会 会員 江戸千家蓮華庵 不白会越語支部長 鈴木 裕美(宗裕)

振り返ると令和5年、新潟・フランス協会恒例のバスツアー企画には参加できず、せめてお見送りだけでも出発の白勢ビル前に向いたのが始まりでありました。

翌年令和6年は両市の締結15周年に当たるとの認識を新たにしたのでした。両市が締結に至るまでの経緯は長く、1992年に草の根の民間から始まった交流が姉妹都市締結に至る前年には新潟・フランス協会とナント市のアトランティック・ジャポン協会の締結から、最終的には新潟大学とナント大学の全学協定に結びついております。幸いにもその場に立ち合わせていただくことができていました。

諸事情により翌年に繰り越された両市の姉妹都市締結から早や15年も経ったのかと感慨深く、何か自身にもお祝いが出来ないかと思いついたわけです。幸い私には、現在副会長を務める夫の母(私には姑に当たる「みつ」)から受け継いだ江戸千家の茶道というおもてなしのツールがありました。現在新潟・フランス協会の理事を務めて



おられる方々やフランス在住のご家族、ナント市にもおられる初代アトランティック・ジャポン協会会長を務められたオリビエ・ドルーアン氏もお仲間に加わってくださっておられました。この旅のきっかけは、働き盛り、子育て盛りの年代ゆえに、何度も新潟・フランス協会主催の



渡仏のご企画を逃された若い世代のお陰です。相談しますと多くのご負担を承知で、二つ返事で同行に賛成してくださったのです。今回更に二名ほどのご希望者もおられましたが、お子様のタイミングやご自身の体調



ゆえに、泣く泣く今回は逃された方もおられたことも書き添えたいと思います。日常をこなしながらの年を越しての準備は怠りなく楽しみ、当日が盛り上がりましたことは、僥越ながら心配するまでもありませんでした。

ただ、忘れてはならないことを申しておきます。今回の新潟・フランス協会の行事に指定していただき、企画から両市との折衝、事前のご準備までいただいた本間代表理事を中心とした新潟・フランス協会様、ツアーにご一緒させていただき当日全員野球とばかりにお力添えくださった皆様のお力なくしては実現しなかった企画であったということです。市当局の担当者様はじめ当地の方々喜んでいただけたのみならず、「楽しかったよ」と終了後にも声をかけてくださった時には思わず熱いものがこみ上げ、交流のすばらしさとともに感謝というありきたりの言葉では表せない思いに、今後とも続いてゆく交流の盛んなることを祈るばかりです。



ナントの日の出

日本料理 蘭(あららぎ) 店主 佐藤 大介

まず初めにこのような機会を与えていただき感謝申し上げます。自分がフランスへ行き料理をできる喜び。想像すらしなかった事が現実になり、ありがたかったです。5年前にも一度行かせていただきそれとはまた違う経験と楽しさ。素晴らしいシェフとの出会い。また通訳をしていただいたフランス

在住のケイさん(水上敬子さん)に新潟市役所の方々。かけがいのない時間でした。現地の料理学校の生徒さんとのディスカッション。それぞれのイベント。料理を通じての文化交流の形ができていました。言葉は通じずとも料理を解してお互

いを知り理解することができる事がある。夢中になれる事。料理が必要とされる喜び。それがどれだけ大事な事なのか。そんな事を思える旅でした。ナントの湖を見せたいとシェフに連れて行ってもらった素晴らしい日の出。あの朝日は深く記憶に残りました。

フランスでお米を炊く。再び

料理研究家 (株)ワイオリキッチン 佐藤 智香子

2024年9月、仏ナント市と新潟市の姉妹都市提携15周年という記念すべき年に、本間さん(代表理事)からお声かけで、日本料理「蘭」の佐藤大介シェフの食文化チームのお手伝いをさせていただくため、ナント市を訪れました。私は2019年に次いで2回目のナント。

当時、初めてナント駅に降り立った時の印象は、小雨降る夕方だったこともあり、初めてきたとは思えない懐かしい落ち着いた空気を感じたことを覚えています。



料理家としてレシピ考案をはじめ、食にまつわるあらゆることを生業とさせていただいている私。食のシーンが千変万化の中、米どころ新潟に生まれ育つ身として、「米・おにぎり」はいつしかライフワークとなり、2019年にナントを訪れたのも、日仏友好160周年事業「ジャポニスム」でおにぎりのワークショップを行うためでした。

当時は2週間の滞在で、相当な量の新潟米をパリとナントで炊き、10日間のワークショップを通じて250名近くの参加者に新潟米のおにぎりを作っていただきました。

フランスのお水は硬水。

日本のお米が美味しいのは、日本のおいしい軟水で炊いているから、というのもごはんが美味しくなる大事な要素。

フランスでは軟水のお水を用意していただき、心をこめて炊いたお米は、佐藤大介シェフの提供する「生姜ご飯」として、イベント会場のラウンジで500食振る舞われました。

新潟・フランス協会の皆様がイベント会場に到着された時は、ちょうど炊き立てのご飯が提供できるタイミングで、一同嬉しい気持ちになったことは言うまでもありません。

蘭の佐藤シェフがコラボレーションした、フランス最年少ミシュランシェフmathieuperou氏とのお店LeManoir de la Regateのシェフたちとの交流、バックヤードでの時間は良き思い出です。

またナント在住の友人宅での滞在も、暮らすように旅するフランスとなりました。美味しい朝食、手製のラタトゥイユをつまみながらのゆったりした夜。

やはり、味わいが凝縮されたフランスの野菜で作るラタトゥイユは美味しい。

そんな日本とフランスの違いと交わりをこれからも研究していきたいです。同行させていただいた新潟・フランス協会の皆様、食文化チームの皆様、ありがとうございました。



ナント市の思い出

あおいとりのおかたづけ・江戸千家越後支部 安藤 陽子

お茶会というお役目を頂き、私にとって生まれてはじめての海外旅行が新潟・フランス協会の皆様とのナント市訪問となりました。仕事柄、人の暮らしやインテリアに興味があり、目に映るものすべてに学ばされた旅でした。

夜にナント市へ到着し、翌朝にはナント市庁舎にて街や経済の活性化対策などについてお聞きしました。海運で栄えた歴史などは新潟によく似ています。それを過去の歴史にせず、エコロジーをテーマにした最新の技術を取り入れて、現在も海運、重工業で栄えており、人口は年間1万人ずつ増えているとのこと！生活の質、満足度を上げるための取り組み、若い人達が住みたいと思えるような「海を眺めながら仕事をする」というイメージ戦略もあります。聞けば聞くほど私も住んでみたい町でした。私が注目したのはナント市を紹介するポップなパンフレットと、その日使用されていた映像に明るいターコイズが使われていた事です。その海辺のイメージでこのカラーなのか？なんてことをメモして自分なりに有意義に参加してき

ましたが、ここには市の街づくり関係者が参加して、新潟市の活性化に活かしたほうが良かったのではないのでしょうか。というのが一番の感想です。

ナント市を走るトラムの使い勝手の良さにも再確認がありました。週末は無料で乗車できる政策は、素直に嬉しいですし自動車の乗り入れ、駐車場、景観、エコロジー、街の活性すべてに有効と感じます。そこで職業病「バスとトラムの違い」に注目し始める私でした。結果、バス昇降の際の段差、ノンステップであっても「登るのはストレス」とたどり着きました。やっぱり床に障害物がなく、出入口も開放的なほうが気分良いですね。

特別なおもてなしの数々、旅慣れた方々との安心感はこのツアーならではの経験でした。

友好的なナントの方々、なぜか日本語だけで過ごせた事で、ぐっとフランスを身近に感じます。素敵な時間をありがとうございました。

速報

原田哲男さんがご逝去されました。

友人 本間 彊

2024年11月23日、彫刻家で新潟・フランス協会パリ支部長を務められた原田哲男さんはパリ近郊のアトリエ(自宅)で泉下へ旅立たれました。12月6日、パリ近郊のシャルトル大聖堂で、引き続き近くの火葬場にて葬儀は滞りなく行われました。葬儀には新潟・フランス協会よりささやかなお花を添えさせて頂きました。また会員の片桐奈保美さんは葬儀に参列するため急遽パリに向かわれました。片桐さんは原田さんとは高校時代は美術部の同期生で今まで友人として長らく交流を続けてこられました。同じく参列されたパリ支部副支部長、水上敬子さんからの報告でした。



新潟・フランス協会のご供花

フランスはもとより、日本各地でも、故郷の新潟にも多くの作品を残されました。優れた芸術家として活動される傍ら、2013年、ご自宅に設立された新潟・フランス協会パリ支部・初代支部長として今まで会員(多くは新潟県人)のために尽くして頂きました。つい先日、9月のナント市との姉妹都市15周年式典の折、同10日、パリで心尽くしの歓迎会を支部の皆さんと共に企画して頂き楽しい夜を過ごしました。原田さんは酸素ボトルを持ちながら杖をつけて参加、支部長としてご挨拶された姿に原田さんの誠実さと真面目さに心の底からの感銘を受けました。不謹慎乍ら最後のお別れにならなければと願いました。あれからわずか3ヶ月足らずのことでした。新潟の温泉で不調の体を癒やしたいといつも話していま



妻アニーさんと



2013年新潟・フランス協会/パリ支部発会式、新潟日報社(元)社長、高橋道映さんと

1973年、ほとんど無一文でパリに渡り50年余、彫刻家として日々刻苦精励され亡くなるまで作品の制作に明け暮れ、世界にその名を残されました。いちばんの居場所だったアトリエで最愛の奥様、アニーさんの腕の中でひっそりと息を引き取られたそうです。

生まれ故郷を愛し、人々を愛した原田さんは望郷の念が強かったと思います。50年連れ添ったアニーさんは原田さんの亡骸をふるさとのご両親が御座すお墓へ持ち帰りたいそうです。来春、原田哲男さんの追悼の会(仮称)を新潟・フランス協会を中心に行いたいと思います。

悲しみを堪えつつ心よりご冥福をお祈り致します。